

令和4年度

第2回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日 時：令和4年12月8日（金）午後2時～3時30分

場 所：鳥取市役所 本庁舎7階 議会全員協議会室

出席者：委員 出席 下田敏美委員、石塚康裕委員、青木博之委員、赤嶋三千男委員、
秋山光行委員、綱本信治委員、升田弘法委員、中野ゆかり委員、
坂本朋子委員、中村 暁委員、贅川 清委員
欠席 田中節哉委員、川夏博志委員、谷田一富委員、飯田浩一委員、
小坂祐司委員、甲田紫乃委員、山本武志委員、太田章太郎委員
オブザーバー 兵庫県但馬県民局総務企画室 中山友美 室長
事務局 鳥取市企画推進部次長兼政策企画課長 戸田昭弘、
同課課長補佐 平田政志、同課係長 古網有希、同課 岡本茉莉絵
岩美町企画財政課長 大西正彦、若桜町企画政策課長 谷本 剛、
智頭町企画課課長補佐 松村陽平、八頭町企画課長 岡崎好美
香美町企画課長 川戸英明、新温泉町企画課係長 谷口修一
説明者 鳥取市市民生活部次長兼地域振興課長 漆原利明
鳥取市経済観光部次長兼経済・雇用戦略課長 渡邊大輔
鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課長 平井宏和
鳥取市農林水産部農政企画課長 山川泰成
鳥取市都市整備部交通政策課課長 小森毅彦

1 開会

2 あいさつ

下田委員長あいさつ

3 議事

(1) 因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏事業の進捗状況について〈事務局説明〉

・・・資料1、当日配布資料1、当日配布資料2

(資料1、当日配布資料1、当日配布資料2について事務局説明)

意見・質問等なし

(2) 第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョン(たたき台)について<事務局説明>

・・・資料2、資料2-1、当日配布資料3

(資料2、資料2-1、当日配布資料3について事務局説明)

○主な意見・質問等

<委員>

人口流出が大きくなっているということですが、これは高校生の卒業後の進学または就職で、こういう状況になっているのでしょうか。

<事務局>

高校生の皆さんが進学や就職の際に、麒麟のまち圏域外に、例えば関西であるとか東京圏であるとかそういった、圏域外に出られる方は多いと感じておりますし、全国的にも同じ流れはあると思います。この麒麟のまち圏域内で、学生さんの希望する就職先や学部のすべてを賄うというのは、なかなか難しいので、進学や就職などで一度出られても、そのあと、また麒麟のまち圏域に戻ってきたいと思っていただけるように、圏域の魅力を感じていただくということが必要な取組だと考えております。

<委員>

私の会社では、乗務員不足と高齢化の状況にあります。昨年から、高校の卒業生を採用して、3年間育てて、21歳になったら運転者になっていただこうという取組をしています。

高校の卒業生を対象に、就職フェアに出たり、学校にもパンフレットを持って訪問していますが、「高校生はパンフレットを読まない。スマートフォンでQRコードを読み取って見られるようにしないと」と言われました。これからは、デジタル化ということもありますので、参考にしていただきたいと思っております。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。

<委員>

資料2-1の60ページ、事業番号1「起業・創業支援事業」について、鳥取市は長い間チャレンジショップ事業をしてきたが、チャレンジショップを卒業して、どのくらいの人が続いているのか、また、どういうのがうまく行って、どういうのがうまくいかないのか、報告書などがあってもいいと思いますが、いかがでしょうか。

<説明者 鳥取市経済・雇用戦略課長>

鳥取市では、平成の半ばくらいから平成25、26年ぐらいまでチャレンジショップという事業をやっておりました。

印象としましては、チャレンジショップでやられていたのは、ネイルサロンであるとか、ファッション系のものだとか、そういったものが多かったように思います。残念ながら、チャレンジショップの後、長くの定着ということは、あまりできていなかったかと思っております。

若い方が多かったのも、本当にチャレンジという部分もあったとは思いますが、こんな事業がいいですよっていうようなところまでのご指導はできてなかったのかなとは思ってお

ります。

産業界の皆さんとお話をする、チャレンジショップのような取組が必要ではないのかというようなご要望もいただいておりますが、現在は、ファンドで起業の時に支援ができるような事業を展開しておりますので、周知を図ってまいりたいと思います。

<委員>

資料2-1の59ページで、「ごみ減量化推進事業」では、香美町は連携していないのはなぜでしょうか。また、資料2や資料2-1には連携事業は78事業とありますが、2事業増えて80事業になるということでしょうか。

<事務局>

「ごみ減量化推進事業」については、第1期のビジョンの時から、香美町さんは連携されておりませんでした。理由については、確認して別途ご報告します。

→豊岡市、香美町及び新温泉町をもって組織する北但行政事務組合において、北但ごみ処理施設（クリーンパーク北但）を整備（平成28年度に供用を開始）し、同組合において広域ごみ・汚泥処理施設の設置及び維持管理並びに広域ごみ・汚泥の処理に関する事務を共同処理している背景から、これを取組の中心とすることが妥当であると考えたこと、また、香美町においては、従前から町単独で啓発事業に注力しており、令和元年度からは、電動式生ごみ処理機購入費に対する助成をするなどし、家庭から排出されるごみの減量化に努めていることからこの取り組みを継続していくという考えによるものです。

資料2、資料2-1に記載の78事業に、当日配布資料3に記載の2事業を追加し、全体として80事業としたいと考えております。

<委員>

約3ヶ月後に、第2期のビジョンがスタートするという中で、大変難しいとは思いますが、2つほど、提案をさせていただきたいと思います。無理なのは承知しています。5年間の計画なので、5年間の中で十分検討していただいて、どこかに、入れていただけたらと思っております。

1つ目は、不登校児童・生徒が、平成29年頃から急激に増加しております。これは全国的なことですが、鳥取県も人口割にしたら、全国4番目くらいで不登校児童・生徒が多いという統計も出ております。我々の麒麟のまちの宝物は子どもだと思っています。

それで、不登校児童・生徒を預かる施設は広域ではありますので、その施設に通えるサポート、児童・生徒たちが外に出て仲間と集うということを、どうにかサポートできないかと思っています。

具体的には、鳥取県では、交通費の補助をするという対策はあるようですが、その施設に通っている関連の人に聞いてみると、そんな補助は知らなかったり、何か使いにくいんだと思います。使えずに、保護者も悩んでいるというのが現状のようです。

そのほか、職員の皆さんが、ちょっと検討していただいて、不登校児童・生徒のサポートとして何ができるのだろうかということをご検討いただきたいと思います。

これは単独の町村だけではできかねることだと思うので、麒麟のまち圏域として、何か施策を打っていかねばいけないような問題だと思っています。

2点目は、この圏域に共通する魅力の一つが、温泉施設や銭湯だと思いますので、温泉施設をてこ入れするということが、この圏域の魅力に繋がってくると思います。

小さな温泉や温泉施設だけというところは、かなり老朽化しています。そういうところを、サポートすることによって、まち全体の魅力がアップしますし、銭湯というのは、災害時には1つの拠点でもあります。SDGsのゴールとしては、何個も該当すると思います。周遊観光の促進にもなるし、高齢化が進むと、自分の1人でお風呂入るんだっつらもったいないからって言って、お風呂入らなくなる。そういうところも、温泉施設で集うことによって、みんなが高齢化を支えることにもなると思います。

そういった意味で、この温泉及び銭湯のてこ入れということも、何か考えられないかと思っています。

<事務局>

ご意見ありがとうございました。1点目の不登校児童・生徒へのサポートについては、まず実態を教育委員会等に把握をしていただきながら、検討をしてみたいと考えます。

<説明者 鳥取市観光・ジオパーク推進課長>

温泉施設につきましては、各市町の実態までは把握はしておりませんが、例えばこの鳥取市内の状況を見ると、鹿野とか吉岡あたりに日帰りの温泉施設等があつて、比較的、入湯者の数が増えている傾向にあるかなと思っています。

この背景とか、そういったものも含めながら、まずは各市町の温泉施設の状況、それが鳥取市だけのものなのか、全体的なものとして、何かやっぱりコロナ禍が影響して、こういう状況なのか、まず分析をしてみて、我々も麒麟のまち観光局を含めた観光施策の検討の中で、これから調査をしてみる価値はあるのかなと思っています。

まずは、実態をまだ掴めてないところがありますので、そこからスタートしてみてもどうかというふうに思います。

<委員>

おそらく知られてない温泉も結構あると思います。新温泉町さんは、温泉天国室という部署まで作って、温泉で売り出そうというので、単なる入浴だけでなく観光とかヘルスツーリズムとか、スポーツツーリズムとかいろいろ合わせ技で、観光側に寄せてきています。

委員さんのご意見は、もう少し地域住民の方がこの中で楽しんでいただけるような方向というものもありますよね、意識的に。例えば八頭町にある鍛冶屋温泉さんは、福祉施設のような感じで一般客が入れるとは思っていない方もいらっしゃると思います。一度、調査をして、日帰り温泉をテーマとして探してみたいと思います。

この2期のビジョンに関して、実はすごく大きな転換をしていただいております。観光については、今まで観光入り込み客数を目標に設定しておりました。当初の目標が800万人、

この麒麟のまちエリアに来ていただくというのがありましたが、コロナ禍に入って、人の動きが減りました。

なぜ観光に取り組むのか、というのはすごく単純です。今日の資料にも、連携中枢都市圏の目標人口がありますが、令和2年の国勢調査25万3874人から、令和7年は1万人ぐらい減ります。定住人口1人当たりの年間消費が大体130万円ぐらいたと見込まれていました。もちろん物価高で多少変わってきています。

それをカバーするために、観光なんです。観光で、外国の方だったら大体8人で1人分の定住人口、日帰りのお客さんだったら80人で1人分の定住人口だっという単純計算はできるんですけど、単純に外貨をこの地域に入れて内需を拡大させようっていうことです。

今回、何が一番ポイントになるかと、今までは、あくまで、旅行者の観光総数が出ておりましたが、この観光消費額が上がるっていうことで人口が減った分をカバーしていきましようっていうことに見直しがされたので、このエリア全体が、質の向上という方に向かっていくっていうのが非常に大きな流れになってくると思います。

新しい戦略がここから、生まれてくる可能性がありますので、非常に大きな転換だと、ありがたく思っております。

それとデジタルトランスフォーメーションですが、麒麟のまちに来ていただく方っていうのは、旅館さんとか宿泊施設とか、飲食店は顧客についてはわかっているんですが、どんな方がどこから来ていただいて、どれだけ使っているかというのは把握できていないので、麒麟のまち観光局が1市6町まとめて、見える化を観光分野からして行って、どういう年齢層でどういうパターンで、どこからいらっしゃるかってどれだけ消費しているのか、宿泊は本当に1泊2日で、例えば、食事なしがいいのか2食付きがいいのか、こういうところまでちょっと掘り下げて、観光サイドのメンバーで、もちろん財源のこともあります、検討を進めて参りたいと思っております。

2種類あって、経済を、外貨を稼いで地域の経済を回すためのDXか、そして行政サービスとかでサービス向上のためのDXか。

おそらく、来年度からはDX元年になると思いますので、一体となって、皆さんで進めていけたらと思っております。

それと、提案になるんですが、この麒麟のまちエリアで高校生ぐらいの世代が集まって、未来を語るみたいなのができないかな、と思います。その世代の生の声を聞かないと、ちょっと乖離しているような状況がずっと続くんじゃないかなと感じております。もし、そういう機会が持てたら、将来的にぜひ生の高校生とか、そういう若い方の意見聞いてみていただいたらどうかという、感想でございます。

<委員>

先日、私の会社で高校生の方と意見交換をする機会がありました。その時に、ホームページに写真が少ないと言われました。私の感覚では、写真はすごく多いと思っていましたが、これだけ違うのかと感じました。私たちも、若者向けの施策とか若者に喜んでもらうためにどうしたらいいかというのを一生懸命考えているんですが、もう考えるだけじゃ追いつか

ないなというのを肌身で感じています。

このビジョン懇談会の今後の方向性とか、いろんなことも含めて、高校生や中学生に、どういうものが響くのかとか、どうすれば魅力的なのかっていうのを、生の中高生の意見が反映できたり、聞き取りができたりするような場所が、今後あるといいなと感じているところ
です。

<委員>

「広報しんおんせん」と「広報ふるさと香美」のにお悔やみとか結婚の欄が空白なんです
が、あそこをやめて麒麟の関係の記事を載せたらどうでしょうか。

<事務局：新温泉町企画課>

ホームページに掲載している広報紙は、その欄が空白になっているのですが、紙ベースで
全戸配布しているものについては、お悔やみや出生・結婚の情報は掲載しております。

<委員>

温泉の調査ということに関しては、各温泉施設の利用を促進するため、この圏域の中で温泉
施設がどのように使われておるのかということ、まず知っておかないと、圏域の中での
温泉の連携っていうのはなかなか難しいと思います。この機会に、しっかりと調査がで
ければなと思います。

若者のための圏域っていうのは大賛成ですが、少子高齢化で高齢者の方々も多分増えて
くるだろうというところで、やはり交通インフラの問題があります。平井知事にも要望書
を出されたということです、しっかりと連携を図り圏域としての要望を伝えて、できるだ
け山陰本線、そしてまたそれに関わる交通施設、ビジョンにも観光地を巡るようなもあり
ますので、そういったものと連携していただいて、観光客のみならず、これから高齢化し
ていく方々の交通手段になるために、我々は考えていかないといけないと思っています。

それと、文化財情報連携事業について、もう少し詳しくお願いできないでしょうか。

<事務局>

文化財情報連携事業につきましては、まず鳥取市のホームページの方に、鳥取市の文化財
の一覧のページを整備しまして、その中に各町の文化財情報にとんでいけるようにリンク
を貼っていくというにして参りたいと思います。

ただ、まず鳥取市の作業が進んでいないというところもありまして、全体としては事業が
遅延しているところがございます。次期のビジョンにも、この事業を掲載してまいりたいと
思いますので、次の期間内には成果をお見せできるようにしていきたいと考えております。

<オブザーバー：兵庫県但馬県民局総務企画室長>

特に観光について、この圏域は、ジオパークでももともと繋がっていましたが、麒麟とい
うワードでつながっています。日本海側の魅力を伝えるということで、香美町・新温泉町だ
けではなく、鳥取県側とつながるっていうのはとても重要な意味があると思います。そうい
う意味で、力を入れてビジョンにのっていければ、すごくいい動きだと思っています。

今回の中ではあまり議論の中には入ってなかったんですが、有害鳥獣の関係も、大きな問
題だと思っていますので、そのあたりも力を入れていただけたらと思います。

4 その他

<委員>

この会議は、審議時間が1時間半しかありません。資料は事前に配布してあるので、事務局の資料の説明は省略して、いきなり議論に入ってもいいんじゃないかと思います。

<事務局>

進め方につきましては、また検討をさせていただきたいと思います。

5 閉会